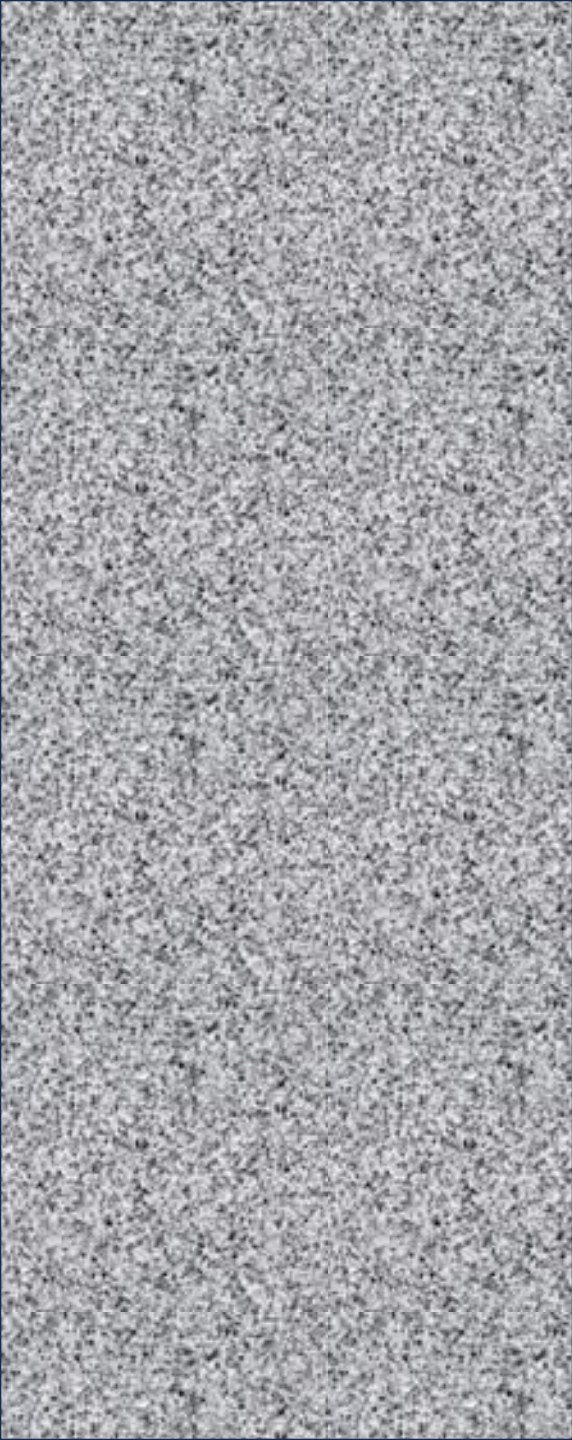




信仰による救い

～福音となったイエス～

2026・8・16

福音は伝えたけれど…

- アジア州からマケドニア州の町々で福音を伝えたパウロ
 - ユダヤ人たちの反対に遭いながら、多くの異邦人たちを救いに導いた
- 新しい弟子たち(教会)が抱えた問題
 - 指導者がいない(もちろんまだ新約聖書がない)
 - イエスの弟子としてどう生きるべきか分からない
 - 十戒を知らない異邦人たちは「罪」が分からない
 - 「教会」のあるべき姿が分からない
 - 間違った教え(律法主義・グノーシスなど)
 - 迫害(ユダヤ人・ローマ帝国)

パウロの手紙による牧会

- 新約聖書の21通中、13通がパウロの手紙
 - 9通が教会宛て、4通が個人宛て
- 教会宛て
 - **ローマ**：行ったことのないローマの教会に「信仰による救い」を教えた手紙
 - **コリント・ガラテヤ・テサロニケ**：宣教旅行で訪ねた地域の教会に対する教えの手紙
 - **エフェソ・コロサイ・フィリピ**：軟禁状態にあったパウロが、大切な教会に送った手紙（「獄中書簡」）
- 個人宛
 - **テモテ・テトス・フィレモン**

ローマ教会の情報を耳にする

- 第二宣教旅行の際、コリントで（使徒18章）
 - ・主に励まされて1年6か月滞在した
- ローマから来たアキラとプリスキラに出会う
 - ・クラウディウス帝の命令でローマを退去
 - ・「ポントス州出身」：パウロと同じディアスポラ
- 「テント造り」をしながら
 - ・「パウロはこの二人を訪ね、職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。」（18:3）
 - ・パウロはローマ教会の情報を詳しく聞いた

地図 23



かつては、パウロがベッシヌス、キラ、タヴィウムなどのガラテヤを訪れたと信じられていたが、の学者たちはこれを疑問視して



大
(地)

中

海
海)

ローマ教会

•ローマ教会の起源

- 「ペンテコステの日」の出来事の際に「ローマから来て滞在中の者」(使徒2:10)が含まれている
- ローマ帝国の中心地であり、あちらこちらからイエスを信じる人々が集まっていた
- 異邦人が中心だがユダヤ人も少なくなかった

•ユダヤ人信徒と異邦人信徒の対立

- ユダヤ人信徒が律法を中心とした旧約聖書を重んじ、また自分たちが選ばれた民であるという自負のもとに優位に立っていた
- 「**律法主義**」の弟子たちもいたのでは

はじめに

- 直ぐにでもローマに行きたかったパウロ
 - 「何とかしていつかは神の御心によってあなたがたのところへ行ける機会があるように、願っています。」1:10
- 本書の目的(一番言いたいこと)
 - 「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。福音には、神の義が啓示されていますが、それは、**初めから終わりまで信仰を通して実現される**のです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」16

はじめに

- 直ぐにでもローマに行きたかったパウロ

- 「何とかしていつかは神の御心によってあなたがたのところへ行くことを願っています。」1:10

- 本書の目的(一)

- 「わたしは福音を宣べ伝える、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力だからです。福音には、神の義が啓示されていますが、それは、**初めから終わりまで信仰を通して実現される**のです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」16

ハバクク書2:14
しばしば旧約聖書を引用して、自らの主張は旧約聖書に基づいていることを強調する

人類の罪とキリストによる贖い

- 異邦人もユダヤ人も罪人である

- 「次のように書いてあるとおりです。『正しい者はいない。一人もない。』[詩編14:3]」3:10

- 「律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。」3:20

- **キリストの血による罪の贖いの完成**

- 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、**ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされる**のです。」

3:23—4

信仰による救い

- 行い(律法を守る)ではなく信仰による義
 - 「すなわち、イエス・キリストを信じることにより、**信じる者すべてに与えられる神の義**です。そこには何の差別也没有ありません。」3:22
 - 「なぜなら、わたしたちは、**人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による**と考えるからです。」28
- 父祖アブラハムも信仰によって義とされた
 - 「聖書には何と書いてありますか。『アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた』**[創世記15:6]** >とあります。」4:3

キリストによる救いの恵み

- 示された**神の愛**と与えられた**平和**

- 「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」5:8

- アダムとキリスト

- 「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。」5:19

- **キリストと結ばれて生きる恵み**

- 「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。」6:8

キリストによる救いの恵み

- 罪の奴隷からの解放

- 「あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うようになり、罪から解放され、義に仕えるようになりました。」6:17-18

- 内なる罪の苦しみ

- 「わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。」7:18

- **霊の法則**によって生きる

- 「キリスト・イエスによって命をもたらし霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。」8:2

イスラエルの救い

- 同胞(ユダヤ人)への強い思い

- 「わたしには深い悲しみがあり、わたしの心には絶え間ない痛みがあります。わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています。」9:2-3

- やがて彼らも救われると信じている

- 「一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、こうして全イスラエルが救われるということです。」11:25-26

ローマ教会の信徒たちへ

- 「互いに」(9回)

- 異邦人信徒とユダヤ人信徒の関係回復

- 「一つの体」である

- 「わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。」

12:5

- 「兄弟愛」をもって愛し、仕え合う

- 「兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。」12:10

- 裁き合わず、受け入れ合う

- 「だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。」15:7

福音となったイエス

イエス

人となってこの世に来られた
弟子たちと共に歩まれた
十字架弟子に三日目に復活した

言葉

弟子たちの口を通して
証言された

文字

手紙の中で
文字になった